

R6年度 美術館評価調書

北海道立函館美術館

A 優れた作品の収集と適切な保管

【基本的運営方針】

函館を中心とした道南地域における各分野の優れた美術作品を、系統的に収集・保存するほか、道内外及び海外の作品の収集も行う。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	・道南ゆかりの作家や道内の書家との繋がりを大切にし、優れた作品の収集に取り組む。	・道南ゆかりの作家や美術関係者との交流を密にし、作品等の調査や情報収集に努めた。 ・購入では、収蔵作品選定評価協議会での承認を得て、「文字・記号に関わる美術」作品を1点収蔵することができた。 ・寄贈では、美術作品選定会議での承認を得て、油彩18点、日本画1点、水彩・素描2点、版画3点、彫塑1点、書2点、写真120点を収蔵した。
所蔵作品の適切な保管	・所蔵品データベースへの登録を計画的に進め、作品の保管環境維持のため、適切な温度・湿度管理などを行う。	・購入・寄贈の新収蔵品を含め、全所蔵品データベース登録が完了した。 ・空調設備の故障から展示室内の温湿度が安定しないため、改善するまでの間、臨時休館としたほか、日々、適切な温湿度管理を行うよう努めた。
コレクションの効果的な活用	・特別展（所蔵品展）、常設展における展示のほか、他館と連携しニーズに対応した所蔵品の貸出を行っていく。	・特別展「蠣崎波響と松前の至宝展」、「文字の芸術をめぐる旅展」における当館所蔵品の展示した。 ・オンラインアート教室では、収蔵庫及び常設展室内の作品を広く紹介した。 ・市立函館博物館及び函館市文学館へ所蔵品を貸し出した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価	
			設定の考え方							
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 当館収集方針の柱である「文字・記号に関わる美術」に係る作品を1点購入、「道南の美術」に係る作品など147点の寄贈を受けた。	B ・今後も作品の適切な保管環境の維持に努める。 ・今回「文字・記号に関わる美術」の作品を1点購入できたが、当該テーマは寄贈の可能性が低いことから、引き続き、現在活躍中の作家や関係者に関わる調査を行い収集につなげていく。
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100%	100.0%	全作品の整備	100%	100.0%	①	a	【成果】 作品の良好な保管環境維持を概ね行うことができた。 【課題】 各種設備の老朽化が著しいため、計画的な修繕や更新が必要。	
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	—	—	—	—	—	①			
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 他館への貸出のほか、オンラインアート教室での授業や当館収蔵品展等で多くのコレクションを活用した。	

R6年度 美術館評価調書

北海道立函館美術館

B 多彩で特色ある展示活動の充実

【基本的運営方針】

当館の所蔵作品を計画的に展示するとともに、他の道立美術館等と連携し、その所蔵品を紹介する。また、借用作品によって国内外の展覧会を自主的に企画・実施する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える展覧会の開催	・道南ゆかりの作家の作品をはじめ、様々なジャンルの当館コレクションの展示や他館との連携により、国内外の優れた美術作品の鑑賞機会を提供する企画展を計画的に開催する。	・特別展では、函館ゆかりの写真家の作品をはじめ、一点物の肉筆浮世絵、日本画家たちの名品や工芸、当館コレクションの陶磁や彫刻の展示など、多様なジャンルの展覧会を開催した。 ・常設展では、金子鷗亭の書をはじめ、道南ゆかりのある作家の作品を多数展示し、当館コレクションの魅力を広めた。
観覧者拡充のための工夫	・幅広い世代の人々に美術や美術館に対する興味・関心や親しみを持ってもらうため、創意工夫した展示に取り組む。 ・展覧会に関連する多彩な教育普及事業を実施し、リピーターを含めた来館者の拡充に取り組む。 ・どうなんアートリンク連携館による相互割引やスタンプラリーを実施する。 ・当館所蔵品の観覧意欲を高めるため、常設展の展示方法の工夫や特別展との連動に取り組む。	・チラシやポスターのほか、ホームページやSNSを通じ、展覧会情報や見どころなど細やかに発信した。 ・出品作家によるアーティストトークのほか、展覧会のテーマにちなんだシンポジウムや古典芸術鑑賞などを実施。 ・どうなんアートリンクの相互割引、スタンプラリーを実施し、来館者拡充に努めた。
館外における鑑賞機会の提供	・道内外の美術館等からの貸出依頼に柔軟に対応し、当館所蔵品の鑑賞機会の拡大・充実に取り組む。	・他館への作品貸出（2館） ・オンラインアート教室（〔函館市内〕小学校2校、特別支援学校1校） ・北海道高等学校遠隔授業配信センターによる当館からの授業配信（〔函館市外〕高等学校2校）

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
		設定の考え方		成果・課題							
多様なニーズに応える展覧会の開催	展覧会の観覧者数（※展覧会毎の内訳は下表のとおり）	49,203	44,451	下表のとおり	38,188	85.9%	③	c	【成果】 空調設備の故障による臨時休館の影響や実行委員会展の目標値の過剰設定により、観覧者数は目標達成には至らなかったものの、各展覧会ともに満足度は高い結果となった。	c	・多彩な展覧会や道南ゆかりの作家の作品紹介を行い、来館者の満足度の向上をめざす。 ・展覧会関連事業の充実をはかり、来館者拡充やリピーター率の向上に努める。 ・五稜郭公園に接する好立地を生かし、インバウンドなどを美術館に上手く誘導するよう、館外表示を工夫していく。
	観覧者の満足度	90.1%	90.1%	過去5年間の最高値	92.5%	102.7%	①				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	53.3%	67.2%	過去5年間の最高値	58.4%	86.9%	③	c	【課題】 ・昨年に比べ、リピーター率は改善されたが、児童生徒の利用割合は減少傾向にある。 ・児童生徒を含め、幅広い世代に興味関心を持ってもらい、観覧に繋がるよう展覧会や関連事業の実践が必要。 ・インバウンドやツーリストの美術館利用が年々増加しているため、多言語表記など集客・利便性向上の対策が必要		
	観覧者に占める児童生徒の割合	16.7%	21.9%	過去5年間の最高値	9.0%	41.1%	④				
	展示の企画構成やPR等の工夫 [定性]	—	—	—	—	—	①				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 所蔵品やアートカードの貸出、オンラインアート教室による授業により、館外での展示や鑑賞機会が広まった。		

【展覧会開催状況】

区分	展覧会名	計 画				実 績				特記事項	
		会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数		
常設展	新収蔵品展／金子鷗亭Ⅲ期	4/1～4/14	12	372 (81)	31	4/1～4/14	12	738 (36)	62		
	金子鷗亭Ⅰ期	4/27～9/23	113	5,711 (1,251)	51	4/27～9/23	113	8,457 (1,055)	75		
		長谷川満二郎とその兄弟				4/27～7/4					
	ささきようすけ展	7/13～9/23				7/13～9/23					
	味戸ケイコ展／金子鷗亭Ⅱ期	10/1～12/8	56	2,830 (620)	51	10/1～12/8	49	3,070 (149)	63	臨時休館 (10/24～31 (7日間))	
	港町函館 [今・昔]／金子鷗亭Ⅲ期	12/21～3/30	81	4,095 (897)	51	12/21～3/30	81	3,466 (523)	43		
	常設展計	—	262	13,008 (2,849)	50	—	255	15,731 (1,763)	62		
特別展	館単独主催展	生誕120年 前田政雄展	4/1～4/14	12	372 (81)	31	4/1～4/14	12	817 (35)	68	
		熊谷孝太郎 間世潜展	4/27～6/16	44	3,124 (684)	71	4/27～6/16	44	2,981 (63)	68	
		蠣崎波響と松前の至宝展	10/13～12/8	50	4,850 (1,062)	97	10/13～12/8	43	2,794 (77)	65	臨時休館 (10/24～31 (7日間))
		文字の芸術をめぐる旅展	12/21～3/30	81	2,916 (639)	36	12/21～3/30	81	3,580 (522)	44	
	実行委員会展	美を競う肉筆浮世絵の世界展	7/13～9/23	63	16,821 (3,684)	267	7/13～9/23	63	8,512 (650)	135	
		北海道書道展	6/28～7/4	6	1,680 (368)	280	6/28～7/4	6	1,702 —	284	
		赤光社美術協会百周年記念展	10/1～10/6	6	1,680 (368)	280	10/1～10/6	6	2,071 —	345	
特別展計	—	262	31,443 (6,886)	120	—	255	22,457 (1,347)	88			
合 計	—	524	44,451 (9,735)	85	—	510	38,188 (2,840)	75			

R6年度 美術館評価調書

北海道立函館美術館

C 学習の場と情報提供の充実

【基本的運営方針】

美術講演会、各種解説事業、美術映画会、ワークショップ等の多様な教育普及事業や、図書資料整備、出版活動、ソーシャルメディア等を活用した情報発信などにより、学習機会や情報・資料提供の充実を図る。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○展覧会の内容に関連した多種多様な教育普及事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会事業（「熊谷孝太郎 間世潜」「長谷川湊二郎とその兄弟」「肉筆浮世絵の世界展」、シンポジウム「道南地方の文化」） ・解説事業（見どころ解説8回、アーティストトーク2回） ・映像事業（美術映画会8回） ・創作・体験事業（ワークショップ2回、ハコビ・アトリエ3回、書道パフォーマンス） ・その他の事業（ミュージアムコンサート3回、古典芸術鑑賞2回ほか） 	<ul style="list-style-type: none"> ○展覧会にちなんだ多種多様な教育普及事業を実施した。（55件） ・創作・体験事業として実施したワークショップやハコビアトリエは、好評につき期間を延長して実施 ・常設展「長谷川湊二郎とその兄弟」、特別展「熊谷孝太郎 間世潜展」及び「肉筆浮世絵の世界展」では外部講師による美術講演会を実施したほか、「ささきようすけ展」では、作家によるアーティストトークを実施。 ・特別展のテーマに合わせた古典芸術鑑賞（落語、松前神楽）の開催 ・松前高校書道部による書道パフォーマンス、来館者に等身大の書を書いてもらう体験型ワークショップを開催 ・アートシーンを盛り上げる音楽と美術をコラボしたミュージアムコンサートの開催
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○情報提供を充実する。 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度成果がみられた、展示作品等のSNSによる情報発信やFM放送局での展覧会紹介の継続 ・ホームページによる情報発信 ・リモートミュージアムの公開 ・地元新聞社と連携した所蔵作品やイベント等の情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNSを活用した美術情報やイベント情報等の情報発信 ・インスタグラムの新規アカウントの取得、イベント情報等の情報発信 ・どうなんアートリンクの相互割引チラシの配付 ・地元ラジオ局への出演、新聞社等への広報活動 ・地域の文化団体等への美術館利用案内チラシの配付

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]		
		前年度実績	目標値(a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題		総合評価	
設定の考え方											
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	58	54	令和6年度事業実施計画による	57	105.6%	①	b	【成果】 ・展覧会の理解を深めプログラムを企画したことにより、目標値を超える件数を実施することができ、教育普及事業の充実が図られた。	B	・展覧会の展示内容に関連し、地元団体や教育機関と連携した様々なプログラムを企画するなど、更なる教育普及事業の充実を図る。 ・ホームページやSNSなどの強みを生かした情報発信となるよう研究・実践していくとともに、新聞社等を活用した情報発信に努める。
	教育普及プログラムの参加者数	4,925	4,380	令和6年度事業実施計画による	3,643	83.2%	③				
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
情報提供の充実	ARS、図書コーナーの利用件数	483	1,431	過去5年間の最高値	526	36.8%	④	c	【成果】 ・図書コーナーの選書や展覧会の関連書籍コーナーなど、ボランティア団体と連携して取り組んだ結果、利用者が増加した。 ・ホームページやPR効果の高い地元紙やラジオ局でのイベント情報などを発信したことで、美術館利用の向上に繋がった。 【課題】 ・SNSによる展覧会や関連事業の紹介を行っているが、投稿頻度にバラツキがあり、不特定多数のユーザーの興味関心を引きつけるまで至っていないため、投稿方法の工夫が必要。		
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	—	—	—	—	—	①				
	HPアクセス件数	254,199	254,199	過去5年間の最高値	222,310	87.5%	③				
	SNSの投稿数	179	179	過去5年間の最高値	229	127.9%	①				
	リモートミュージアムの公開件数	1	1	過去5年間の最高値	0	0.0%	④				
情報発信の工夫改善 [定性]	—	—	—	—	—	①					

R6年度 美術館評価調書

北海道立函館美術館

D 活動の基礎となる調査・研究の推進

【基本的運営方針】

函館を中心とした道南地域等の美術に関する各分野の調査・研究を行う。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
調査・研究の推進	○道南地域ゆかりの作家、作品に係る調査研究を行う。 ・道南ゆかりの作家に係る特別展、常設展開催にむけた調査研究 ・他の美術館・博物館等との連携による調査研究 ・学芸員の研修機会の確保	・各学芸員が展覧会開催のための調査・研究を行い、展覧会の実施・充実に結びつけた。 ・自主企画展や実行委員会展では、作家や作品を精緻に調査し、テーマと結びつけた出品やワークショップなどの開催を実現した。 ・「蠣崎波響と松前の至宝展（アートギャラリー展）」では、関係者の協力のもと、地域の歴史文化や古典芸能、江戸期に作成した地図の変遷などの資料を綿密に調査し、展示に結びつけたほか、担当学芸員が図録を発行し記録として残した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価(※定量指標がないため最高評価はb)			総合評価
			設定の考え方	成果・課題							
調査・研究の推進	学芸員による調査・研究の報告や発表の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b 【成果】 ・「蠣崎波響と松前の至宝展」では、精緻に調査・研究した成果を図録として残した。 ・調査・研究の成果を展覧会の内容充実に結びつけた。 ・北海道美術館学芸員研究協議会に学芸員が出席し、研究の成果を発表した。	B	地方美術、あるいは収蔵方針を踏まえた調査・研究を継続的に行い、基礎的な情報の蓄積を進め、研究論文の執筆・発表、展覧会の企画や内容の向上に繋げていく。	
	学芸員の研修等の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R6年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

北海道立函館美術館

【基本的運営方針】

ボランティア団体、地域の学校、博物館施設及び文化団体等と連携した取組を推進し、地域文化の振興と活性化を図る。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の活動を支えるボランティア団体との協力体制を一層強固なものとし、館運営の改善や活性化に取り組む。 ・ワークショップ等の事業や図書資料整備等における連携・協力 ○五稜郭周辺の文化施設を含む「アートギャラリー北海道」の道南地域連携施設による「どうなんアートリンク」をはじめ、地域との連携・協働による取組を実施する。 ・相互割引やスタンプラリーの実施 ○その他地域振興・観光振興に寄与する取組の実施 ・函館商工会議所青年部主催「はこだてカルチャーナイト」参加、クルーズ船でのPR活動、高齢者大学への講師派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア団体への日常的な指導・助言、役員との打合せや情報共有を行い、協力体制の強化に努めた。 ・展覧会ごとの研修、ワークショップの協力、展覧会グッズの販売などの協力 ○どうなんアートリンクの取組（道南地域連携文化施設との連携） ・相互割引、チラシの配布、スタンプラリーを実施 ○その他 ・はこだてカルチャーナイトへの参加、クルーズ船へのチラシ配付、函館アートコレクション交流会への出席、七飯町歴史館への出前講座
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育機関と連携した取組 ・高等学校の地域探究学習の受入 ・高校生による書道パフォーマンス ○地域の教育機関への支援 ・函館美術館活用学習のための指導者研修、教員のための鑑賞研修 ・オンラインアート教室 ・キャンパスパートナーシップメンバー校登録に向けた広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育機関と連携した取組 ・市立函館高校の地域探究型学習 ・松前高校書道部による書道パフォーマンス、ワークショップ ○地域の教育機関への支援 ・教員のための鑑賞研修2回、美術館活用学習のための指導者研修2回 ・オンラインアート教室3校 ・北海道高等学校遠隔授業配信センターによる当館からの授業配信（[道立]高等学校2校） ・地元大学生との意見交換会（若年層の美術館利用の向上のための対策と工夫）

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価			総合評価
			設定の考え方					成果・課題			
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	【成果】 ・ボランティア団体との連携・協力により、館運営の活性化が図られた。 ・地元ラジオ放送局や新聞における展覧会やイベント紹介により、参加者数の増加が見受けられた。	B	・ボランティア団体をはじめ、地元企業や教育機関との連携を図りながら地域の活力向上をめざす。
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	-	-	-	-	-	①				
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	c	【成果】 オンラインアート教室では、他の地域の学校にも作品解説できたほか、収蔵庫や展示室内の紹介も行い、児童生徒の興味関心を惹いた。 【課題】 教員を対象とした研修は、実施時期や時間帯によっては、参加者が少ない研修もあったことから、日程等を精査し、実効性のある研修とするよう工夫が必要。	B	・新たな業種や地域団体、学校教育機関との取組を模索し、提供するプログラムを拡充する。
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	5	3	令和6年度事業実施計画による	5	166.7%	①				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	0	1	過去の実績校数	0	0.0%	④				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				

